

卒業官ニ仕へ内務省土木局長警視總監内務次官ニ至ル大  
正十五年二月三日病ヲ以テ東京下高輪ノ居ニ率ス越七日  
鶴見總持寺ノ營域ニ葬ル配ハ岡野欣之助女タママ子四男二  
女アリ光祀ヲ奉ス

大正十五年二月七日

嫡子 光謹誌

## 議 院 雜 話

△院内より院外へ▽

××新聞記者 覆 面 生

議院内に於て種々の問題が恰も百面相の様に種々の形態  
に變つて捲き起される。その或る物は一號活字になつて堂  
々と院外に發表機關を以て傳はるが或る物は傳はらないで  
只だ院内にて口移しの儘或る期間中は一つの存在を示して  
ゐるが何時の間にか雲霧の如く消滅して了ふのが常であ

氏は此墓誌を抱き先豎床次竹二郎水野鍊太郎兩氏其他  
の知友に送られて黄土に旅立ち、總持寺のほとり一墳墓の  
主と爲られたことこそ、呼べども還らぬ恨である、しかし  
在世中の偉績は帝國の全土に遺されて氏逝くとも朽ちるこ  
と無かるべし。今筆を擱く夫れ芳魂何れぞや。

る、その或る物といふのは政局の展開に伴ふて縦から横か  
ら綻び出した斷片的世想である、一つの院内挿話である、  
此の端的なる小話から時々意想外なる時局を産み出すとき  
もあり波亂を極むる時もある此の意味合に於て私が毎日足  
を摺古木の様に疲らかして院内を驅けづり廻つて穢ない空

氣を呼吸し乍らの想見を些か披露したいと思ふのである。

▽議院法に依つて豫算案の審査期日は廿一日間と決つてゐることは誰しも熟知してゐる。所が此の廿一日は本會議に上提されて審議される時から或はさうでないときかといふことが毎年繰り返へされることであり乍ら烏渡氣がつかない、誰にでも聞いて見恰へ。

『さあ、何時からかなア』

と必ず言ふから、夫は極めて簡單なことである、即ち政府から豫算案を衆議院に提出してこれを受理した日からである、だから今度の豫算案は二月一日に提出されたから二月廿一日が最終日である。

その日より二日過ぎて本會議に上提されて委員長から報告があつたがこれは何等勘定にはいらないのである。

▽その豫算案で思ひ出したが、豫算委員室では絶対に禁煙であつた、特に本年だけ、その譯は該委員室に敷かれた敷物が非常に高價な絨氈で而も舶來物なので緊縮内閣には度外れの品物であつたので豫算審議の初日に東北辯丸出しの

藤澤委員長から

『此の委員室に敷いてある敷物は高價なもので御座り、それから何卒煙草を喫まないで、下しやい』と行儀の悪い代議士共の煙草を封じた故である、長い討論があつたり下らない質問を連發してゐるときに愛煙家は室外に飛出しては、

『忌々しいなア、あの敷物は』と怨言を發しては委員連が交替に煙草を喫んだものだ。

▽豫算案が本會議で質問されるとき政友會の山崎達之輔氏が文部省所管の師範教育改善問題に關聯して『在營』と『服役』の定義に就て政府に詰問し、これが端なくも政府部内の不統一を示し竟には若槻首相を始め文部、陸軍の兩閣僚までこれが答辯には單なる記憶書でなく何れも法律的根據に依る答辯書を携へ一字一句間違なく朗讀せしめ野黨をしてすつかり喜ばしめたあの問題張の本人は文部省に於て普通學務局長時代から起つて昨年まであの二種の文字の法律的解釋が法制局でも確然と決してゐないことを窺知してゐる政府の油斷をしてゐる其の虚を突いたものである。

御本人は夫を現實に私に告白してゐる、山崎氏に取つては男を賣るには、時と言ひ標的と言ひ勿怪の問題であつた。

▽これと同じ意味に於て遞信省出身の元管船局長であつた若宮貞夫氏（政友）も又大藏省の前次官であつた小野義一氏（政友）も共に同様の手柄を得て幸運に芽ぐまれてゐる、

前者は非常に算盤をはぐくことが好きで暇さへあれば豫算書の計數の帳尻を勘算してゐた、偶然に發見されたのが關東州と臺灣の誤算であつた、殊に關東州が帳尻が合はないといふことが判明したときに各殖民地が狼狽して徹夜して

各殖民當局者が十露盤をはぢき臺灣の如きは後藤長官から大丈夫かと再三念を押されてゐたにも拘らずその翌日違算があつて、すっかり悄氣てしまつた、後者は理財當局者として在職中知れる海軍豫算の内幕を財部海軍大臣に向つて一問一答の形式にて兩氏は椅子に掛け放しで大車輪で應答を重ねてゐるうちに海相をしてほんとに答辯に窮せしめて凱歌を奏したものだ。

▽その結果政友言ては這麼事を言つてゐた。

『どうしても政府當局を苛めるには夫々の所管に在職してゐる官吏上りでなければ功を奏しない。その意味に於て各省を通じて夫々の専門家を欲しいものだ、殊に内務省所管にては一層その感を深うする』

と言ひ山崎氏の如きも、

『これで内務省所管に潮地方局長でも代議士になつて政友會へ來て呉れば強味だがなア』

と嘆聲を洩らしめた、然し御本人の潮局長には相憎其塵氣は露更ないさうな。

これに反して政府側では斯かる現象に對しては、

『官吏の在職中自分の關係した祕密事項や緊急問題を擔ぎ出して代議士になつたからとて政府苛めの道具に使用するのは官吏服務規則にはないと言ひ乍ら如何にも不道德の憾がある這麼のには恩給でも没取するといふ罰則を設ける必要がある』

と切言してゐる、異なる立場に依つて勝手な解釋が下されるものである。

▽新聞がよく出鱈目な報導をするといふことは常に怨嗟の聲として聞かされることである、此頃の新聞を見てみると院内に於て、正午閣議を開き、何々の事項を決し、時局問題に就て意見を交換——といふ様な記事が載せてある、此の記事のことを平常吾々の仲間では、十行記事と言ふのである、所が議會が開かれると閣議の記事は十行記事でなくなり、時々長い記事がある、あれは首相官邸詰めの記者諸君が院内大臣室の廊下に立坊をしてゐる閣議が終つて衆議院の本會議に出席する閣僚を捉へたり書記官長を捉へたりして出来上つた製品である。所が此の大臣連決して要領を得させないから、その時の院内の空気を推察して製造する時が多い就中此頃の鐵相の桂冠問題に絡んで政局の前途に就て書き上げたものは捏造が多いのである、政府に取つては不利益な事柄であるから一層要領を得させないからである、夫等の記事中に、

「鐵道委員會で否決にあつた下諏訪鹽尻間の新敷設線は寧ろ降旗線（降旗政務次官）とも言ふもので、その責任者の

降旗君も仙石鐵相に次いで何處へか雲隠れをして行衛を晦ました」

といふ様な記事が慥かにあつた筈だ、これは該線の否決になつた二月廿日に仙方鐵相が片瀬に逃避した、日の出来事である、所が其の翌日降旗氏は所在を晦ましたる辯明に「恰度僕が床屋に行つてゐるものだから其處風説が起つたのだよ、頭を見て呉れ」と實物を示してゐた、成程綺麗になつてゐる。

這麼喜劇は毎日繰り返へされてゐる、これは新聞記事の樂屋話である。

▽前首相加藤さんが逝去の日であつた、十時前後に悠々と各省の政務官連が登院して來たものだ、其の頃には新聞記者が目色を變へて院内を右往左往して眞偽を確めるため活動してゐるのである。愈々逝去が確實になつてその報を之等政務官連に齎らしたらば、

「何、僞たよ、漸次御容體が良好といふことだもの、其塵事が無い」

と頑として聞かない人達もあつた、最後に眞實だと判然した時の狼狽振りつたらなかつた、或る政務官の如きは「次官會議にどうも書記官長が出席してゐないのが不思議だと思つたよ」

と述懐してゐた、ある政府部内の大官の如きは宮内省から至急来いと電話を受けて始めて知つたといふ人もあつた、だから彼等異常な場合になつて始めてその大官なるもの存在が的確に分るのである。

▽政黨が議會になると政府苛め或は政黨苛め即ち綱紀肅正の責道具として種々の買出しをやる、政友會の三百萬圓事件の如きは某新聞記者が某待合に佐藤去來を同伴して政友本黨の佐藤重遠君に橋渡しをしたのが始まりだと傳へられてゐるそれがため橋渡しをした某記者は意に油揚げをさらはれた様な慘い目に會はされて此頃でも佐藤重遠民の所に日參をしてゐるといふ噂である。

▽政友會に依つて同黨の砂田重政氏が摘發係となつてゐる内田良平氏問題に關する江木法相のスパイ問題なるものは

目下裁判所にて審議中に屬し一言片句も言へないが、責任者である前代議士の小橋某が取調にあたつて腰を折られたり敵の買収に應じたりして變心されては、無駄骨を折るも同感だからと言ふので政友會から監視人をつけてゐるといふ噂である、政黨も樂ぢやない。

▽次ぎに滿鐵に於ける第二の塔運炭鑛問題にせんとして政友會の板野友造氏に依つて摘發されたる華勝炭鑛問題を賣り込んだ者は某代議士の縁故に係る滿鐵社内の某氏だとの噂が専らである、滅多なことを言ふと烏渡来いをやられるから仲々樂屋はさらけ出せない。

▽各政黨には人情、役を勤むる者が居る。各政黨では本會議開會日には必ず正午に院内で代議士會を開いて其の日の議場に於ける策戰を決める、大抵公開をするが時には秘密會をやるときもある、すると人情といふものは恐ろしいもので各政黨出入の記者會が必ず一つあつて、その記者諸君の中にはまたその政黨を極端に最良にしてゐる人達が居る、又或る者は恰も政黨員の如き、感を呈してゐる。これらの

最夙役者が敵黨の策戦振りを探つて夫々の幹事に注進役をして呉れる、これが大變幹事に取つては有難いことなのである、此の人情役を勤むる者の例外としては適々赤坂や新橋の藝者、料理屋の女中などがスバイをやつて飛んだ拾物をさして呉れることがある飛耳張目といふのは新聞記者のみの獨占的名稱ではなくなつた。

▽讀者諸君は新聞紙上で議會の婦人傍聽者の寫真を見るでせう、そして×印のもとに婦人の姓名が這入つてゐる、これは正式の何に夫人である時は代議士諸君が議事が終了すると共に、

「おい歸るよ」

てなことを言つて、わざわざ傍聽席に迎へに来るから直ちに判明する、特に中原徳太郎令夫人の如きは毎日の日參で、正午頃にあると御亭主の中原代議士が傍聽者出入口をキョロキョロしてゐるのは珍らしくないが、第二號であつたり鳥渡よい仲の岡惚れ程度の婦人で、ある時は探索するの骨が折れる、其座時は守衛に連絡を取つて所持せる傍聽

券の紹介議員の姓名と婦人の姓名とに依つて判断すれば正體忽ち暴露する、紅葉館の女中や佐久間町の末、けんの女中が丸鬘に結つてよく來るのである。

▽解散か妥協かと天下の視聽を集めた税整案が小委員會に移つた時である、寒がりやの元田委員長が

「記者諸君を澤山前にして懇談會をやるといふことは外國にも例がない、僅かに七人しか居ないのに公開をするといふのも可笑しなことだし夫から如何も演説口調になつて具合が悪いから祕密會に仕様ぢやないか」

と諮る所があつて賛成といふので忽ち祕密會、その室が第六委員會と言つて廊下の突き當りの疊數で言へば六疊敷位の極めて狭隘な室であつたので、政友會の悪口屋が、

「如何だい、憲本新で密會をしてゐる、見不轉を嫁ぐのだから困つたものだよ」

と評したものだ、其の當時の光景をそのまま、政友會から選まれて小委員になつた同黨の高橋熊次郎氏が廿一日の税整會議で本黨の三輪氏に應酬して、

『乳繰り合つたとか、密會をしたとか』

批評したのは議會の神聖を汚すものありとの理由の下に廿三日の本會議で政友本黨の丸山浪彌氏の動議に依つて到々懲罰に附されて了つた。今期會議中田淵代議士の

『墮落腐敗。』

と言つたて懲罰されたのに次いで二番目である。

▽税整委員長の元田さんは昔から非常に神經質なそして氣の短い人で有名であるが、今回も遺憾なくそれを連發したのである。

本黨の看板たる自作農免税に關聯して妥協成立したる後の委員會に於て適々永小作權の問題に論及したる時元田委員長紙片に何か書きつけて内務省の政府委員會に渡す取り上げて見ると、

『永小作權に關する法規の提案を乞ふ』

といふ意味のものだから所官の大藏省政府委員に交附する、この問題は元來高知縣と愛知縣とに於ける特殊のものなので大藏省としては何等準備もなく而も政本黨と妥協に

依つて湧いて來たる速急の案件で法制局でも定議を下しかねてゐた難物のものであるので内務省の政府委員が此旨を取りついたのである。即ち

『法制局でも立法技術の上から仲々困難なので目下考慮中。』

と返事をする、其時は元田委員長、うん、さうかと言つてゐたから大藏省の政府委員も安心してゐると、暫らく経過すると再び委員長から前同様の紙片がフラフラと渡される。詮方なく前述通り書いて渡す、三十分程の間の中に斯くすること四回餘、意には

『こんなことが直ぐ出來ないことがあるか』

の最後通牒に接した仲繼の内務省の某政府委員は大藏省の藤井國稅課長に、

『君がよく説明したらば好いちやないか、委員長の傍に來給へ』

と席を譲らんとしても、恐れをなして傍へ寄りつかない、その結果元田委員長何と思つたか、

「此の問題は立法技術上至難なので法制局の屬僚に立案させてあるさうです」

これらや政府委員ベソを掻きたくなる、濱口藏相を捉へて、

「頑迷不靈」

の熟語を進呈して恬然としてゐる委員長だから這歴ことは朝飯仕事である。

▽此の永小作權問題の所有者は政友本黨の大石大といふ代議士で、これが爲め單行法規を作製するといふ破天荒振り、これには濱口藏相、仙石鐵相、片岡商相も同病相憐むの人達であるが就中濱口藏相と大石君が尤もその病氣が猛烈なのである。此の兩氏が偶然議員使所で出遇して、大石「濱口さん、あれは何とか是非御考ひを願ひます、高知縣はあれで苦んでゐるのですからね。」

濱口「うん、さうだね、高知縣はあれがあるので厄介だね。」

同病同志が病根退治の問答である、何んて偉いこつちやないか、一地方の問題で單行法規が制定されるのだ。

▽やはり税整案妥協の成立した委員會の開會前の出來事である、西瓜頭の三輪市太郎氏(政本)が政友會の三土、砂田

の兩氏と問答があつた後、三輪氏大聲を張り上げて君達は憲本提携といふが、税整の妥協がついたので解散をしなくともよいのだよ、口では政策々々といふが腹の中には違ふんだからね、政友本黨様々だよ、たとへば三千圓の歳費を倍額の六千圓に値上げしたらばといふ議が提案されて見給へ、君達は政策だとか何とか言つて反對はしても通過すれば多い方がよいから黙つて手を出して懐へ入れて了ふだらう」

とやつたものだから政府委員も新聞記者も滿堂服を抱へて笑つた、蓋し各政黨とも解散を恐れて居ることは共通だから眞理は何處までも眞理に違ひない。

▽もう一つ代議士諸君の告白振りを披露しやう、

二月廿一日になつて始めて税整案といふ大物が下院を通過したが、夫れまで法案が一つも通過してゐない休會明けから三十日も經過して、もこれには政府も議事澁滞をして



困るから委員は精勵して呉れと註文がある位である、これは餘り類例のない珍現象である。

と言はねばならぬ、多数黨横暴の非難はよく聞かされたものであるが、小黨の併立もまた弊害が多いのである、此の議事不進行に就ては憲政會の進行係り作間耕逸氏が或時「幹部共は頻りに議場に入るときは議事の進行を計れと言ふけれど、君迂闊に進行係りをやつて見たまへ、甚い目に合はされるよ、

議事不進行も以つて知るべしである。

▽郡役所廢止といふ問題は政友本黨が始めから廢止に反對であり、現に床次總裁の如きは熊本で遊說の際は正面から廢止反對の演説をされたと聞いてゐたのに、豫算分科會の態度決定といふ恒例日即ち廿日の午前十時過ぎ政友會の岩崎總務と政本黨の松田、小橋の兩總務とが頻りに交渉をしてゐた事が結果を聞けば、希望附きで廢止賛成と來たものだ、尠くとも内務省關係の人達は政治の公明を標榜する政本黨の變化振りの早い報告に接して、

「フン、希望附きか、原案さへ通過すれば結構々々。」

と欣んだのは無理もない、各省では自分の省から提案のものが通過したときの氣分は、何のことはない學校競争に勝を制したと同様の心理状態であるから、夫にしても、この問題の廢止賛成となるまでの推移経程に於ては政本黨としては可なりの紛擾もあつて代議士會を公開して協議を諮つたところ意外の激論者があつて、周章狼狽して秘密會に附したが熱狂し易い吉良元夫氏、肥料屋の多木衆次郎氏などは脱黨するぞと言つて秘密會からとび出す騒ぎを演じ、見物役の政友會をしてヤンヤと拍手喝采をせしめ事、の如何に至つては廢止賛成を翻して鐵道豫算と同様政友兩黨一致して原案否決を喰はしても政友會の幹部をして手具脛を引かせ、憲政會をしてハラハラせしめた興味ある場面を呈したものである。

▽毎年議會中には野次の警句が吐かれて敵味方共に呀つと言はしむることが度々あるものだ、然し近年は名句がない、どうも種切れの觀がある、常例野次の原敎兵衛君が本會議

で税整の討論に於て憲政會の御大町田忠治氏を、

『ノンキナトウサン、淺草へ行かうよ、』は今期議會中の秀逸であつた蓋し町田氏の顔はノンキナトウサンそつくりである。

▽尾崎行雄氏が過日の豫算總會へフラりと傍聴に来て、折しも貴族院の互選規則か何かで若槻首相と問答をしてゐるとき、尾崎氏傍人を顧みて、

尾崎『あの質問をしてゐる若い男は何といふ男だね』

傍人『あれは政本黨の原夫次郎といふんです』

尾崎『フン……』

とうなづいてフイと室を飛び出したのを見た傍人、

『可愛想に原君も尾崎さんの限中には存在しないのかなア』

その原夫次郎君二月十九日の大木遠吉伯の告別式に参列して政友會に入黨した舊同志と出會して、

『君、もう少し辛棒すれば床次内閣が出来るものを惜しいことをしたね』

舊同志『床次内閣が出来たら遠慮が入らないから迎へに来

て呉れたのむよ』

と呵々大笑して、

『政友本黨の奴等未だ夢から醒めない、呆れたものだ』

と何れが夢を見てゐるのだから結果が来なくちや分らない

▽今議會で外相として支那問題で散々引張り出された幣原外相が議員の質問を評して、

『ピント来る様な質問がありません大抵つけ刃で、一問一

答を二、三遍繰り返へしてゐるとすぐ箔が剥けますよ、外

交問題は新聞が種本で材料は新聞記者諸君が提供する様なものですな……』

議員共緊蹙一番出直すべしだ。

▽國務大臣は一體何時間睡眠を取るかといふことが取沙汰をされたが若槻さんは三時間しか寝ない、あとの大臣連はとも此の眞似は出来ないが、夫れでも精々五時間位しか寝ないさうだ、これちや大臣になる人は健康問題を彼是批評されるのも當然である。

私の貧しい院内の雑話は一先づ梟をつける。御退屈様。